

<株式会社エフエム東京 第 466 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：令和 2 年 3 月度

※新型コロナウイルス感染防止のため、ご参集頂かず、素材の郵送またはメール送付・レポート提出対応といたしました。

3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇レポート提出委員（4 名）

横 森 美 奈 子 委員長	内 館 牧 子 委員
ロバート キャンベル 委員	秋 元 康 委員

◇レポート未提出委員（2 名）

渡 辺 貞 夫 委員	川 上 未 映 子 委員
------------	--------------

◇社側確認者（レポート確認者）（8 名）

黒 坂 代表取締役社長
西 川 取締役副社長
小 川 常務取締役
内 藤 執行役員編成制作局長
延 江 編成制作局ゼネラルプロデューサー
宮 野 編成制作局次長 兼 編成部長
若 杉 編成制作局制作部長
高 橋 編成制作局制作部チーフプロデューサー

【事務担当 内藤放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴 （約 25 分）

『松任谷由実 SURF&SNOW in Naeba 40th Anniversary Celebration!』

3 月 1 日(日)19:00～19:55 放送

《議事内容》

議題 1:最近の活動について

※新型コロナウイルス拡散防止のため集合せず、  
番組視聴のみで活動報告はなし

議題 2 : 番組試聴

【番組名】

『松任谷由実 SURF&SNOW in Naeba 40th Anniversary Celebration!』

【放送日時】

3月1日(日)19:00~19:55 放送

【番組概要】

本日ご視聴いただくのは、3月1日(日)19:00~19:55 に放送した TOKYO FM 開局 50 周年記念特別番組『SURF & SNOW in Naeba 40th Anniversary Celebration! 恋とラジオとユーミンと』のダイジェストです。

この番組は、松任谷由実氏の冬の定番ライブ「SURF&SNOW in Naeba」公演 40 回を記念した 3 月 1 日、8 日、15 日、22 日(日)の 4 週に渡る特別企画で、ライブのバンドメンバーでもある武部聡志氏とのライブの歴史を振り返る対談や、プロデューサー松任谷正隆氏が語るライブにまつわる話、さらに aiko、黒柳徹子、アルペンスキー元日本代表の皆川賢太郎、薬師丸ひろ子ら著名人からのお祝いの声、サカナクション・山口一郎との対談、さらには、リスナーの恋愛エピソードを、「私をスキーに連れてって」の原作を手がけたホイチョイ・プロダクションズが演出するスペシャル・ラジオドラマでお届けするものです。

今回ご視聴いただく初回 3 月 1 日(日)の放送は、「伝説となった SURF & SNOW in Naeba」をテーマに、「SURF&SNOW in Naeba」40 周年の歴史の中で起こった様々な



エピソードを、長年ライブに携わるバンドメンバーの武部聡志氏、そしてライブ制作に長く携わっているホットスタッフ・プロモーションの横山和司氏と松任谷由実氏との対談によって紐解いた回です。

## 【委員の意見】

○ユーミン SURF & SNOW in Naeba 40 周年の振り返りとしてユーミンらしく淡々と運ばれていって、軽やかでドスの効いたいつものユーミンの語りの世界。武部聡志さんの登場で空気が一気にクリアになって、83 年からのライブの軌跡などがくっきりと見えた気がした。苗場が次のツアーの実験台であり、ふだんできないことの数々、初めてのバックミラーなど面白い回顧だった。

○「恋とラジオとユーミン」のコールで恋のお節介ドラマが始まるが、あまり興味が湧かなかったというか、たわいもないけれどそれ以上ストーリーとして心にささるエレメントが見出せなかったが、ドラマ明けの女性ファンのコメント、「ずっとついてきてよかった」というライブ現場の一声には説得力があった。

○ユーミン世代じゃないリスナーたちに音楽とライブ感をどう伝え、どう揺さぶるかを考えさせる番組だった。

○この番組を試聴番組とした理由に少し疑問がある。ユーミンのような人気アーティスト・大御所は、多くの信奉者ファンがついていて「声やおしゃべりを聞けるだけで幸せ」なため、あえて審議せず、実施報告だけでも良かったと感じる。番組の構成や、作りよりも、ユーミンが言っているんだから、というところが全てになってしまう。その分もっとチャレンジングな番組を審議したほうがいいのでは。また、ユーミンは中高年以上の支持によるところが多いかと思うが、もちろんそういう番組自体は当然番組編成としてあってもいいとは思いますが、それに依存し安定を求めるような傾向が時に見えて、今後、若年層を取り込む上では、多少の疑問を感じる。この番組自体の批評からは逸れるが「まだどう出るかわかりませんが、こんな番組つくってみました」という、いい意味の賛否両論出るようなものが、審議対象としてはふさわしいのではないかと思う。

○きちんと構成された番組だなと感じた。音楽監督の武部聡志さんとの対談も興味深く聴くことができ、ホイチョイプロダクションが演出したスペシャルラジオドラマも面白かった。4 週に渡っての特別番組なので、盛り沢山のコーナーがあって飽きさせない構成になっていると思う。

完璧なラジオの特別番組。ただ、完璧であるがゆえに、物足りなく感じてしまった。冒頭のユーミンの台本のある喋りもわかりやすくいいが、やはり、台本なしのユーミンの話を聴きたい。武部聡志さんとの対談も面白かったが、あつと言う前に終わってしまった感がある。ラジオドラマも、これからどうなるんだろう？と思ったところで終わってしまった。高級料亭の幕内弁当を食べた感じ。おかずはどれも美味しいし、見栄えもいいけれど、まだまだ、お腹がいっぱいにならないなど。おかずが少しずつ、いっぱいあるので、どれがメインかわからない。せつかくの 50 周年記念番組、苗場も 40 周年なら、ラジオドラマだけで勝負するとか、音楽監督の武部聡志さんととことん話すとか、苗場の 40 年のセットリストの中から人気投票をやって、ベスト 40 を紹介するとか。一点豪華主義の方がよかったかもしれない。あるいは、表の 50 周年記念番組と、裏の 50 周年記念番組を 2 タイプ作って、表の番組は放送用、裏の番組はデジタルコンテンツ用にするとか。「今だから言える苗場ライブの黒歴史ベストテン」なんて聴きたいのでは？武部聡志さんの「スタッフは苗場プリンスに泊まれない」話は面白かった。素のユーミンを聴きたいと思うのは贅沢かもしれないが。

○語りの声も良く、どこかに凄みを感じさせ、大人の香りが心地よい、さすがユーミンという番組。開局 50 周年、Naeba40th にベストな番組だと思う。

○一点、ラジオドラマで登場の 4 名が出会ったところからの展開がどうかと思った。ラジオドラマというのは演じる人の力量が出る。つまりは演技力。それは映像よりもはっきり伝わってしまう。あまりに素人感が出ていて、番組の質を下げてしまった。ドラマは入れずにユーミンの語りだけで構成したほうが良かったのでは。